

平成21年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文
中学校の部 最優秀賞



「公平な貿易」

いわき市立四倉中学校 3年 小牧 悠里

「フェアトレード」というものを知っていますか？

私が、最初にそれを目にしたのは、意外なものでした。ファミリーレストランで偶然購入してきた、コーヒーのパッケージに書かれていたのです。もちろんコーヒーはとてもおいしかったのですが、それよりも、私はフェアトレード商品が、発展途上国を救うことになるという説明書きに、とても興味を持ちました。こんなコーヒーで、そんな大それたことができるなんて信じられませんでした。

そもそもフェアトレードとは一体なんなのでしょう。私は、まずそれを調べてみることにしました。

フェアトレードとは、直訳すると「公平な貿易」という意味あいなのだそうです。私は、基本的に貿易は互いに話し合い、公平にしているものなのだと思います。だから、当然全ての貿易がフェアトレードなのだとずっと勘違いしていたのです。

まず、たいていの貿易にはたくさんの仲介業者が入ります。それが、特に海外との貿易となれば、入る仲介業者も多くなります。その間で、それぞれの仲介業者が、利益を出します。すると必要以上に物は高くなってしまいます。しかし、高くすると、商品は売れません。そこで、その改善方法として原価自体を下げさせて、安く買いあげるといっている方法を行っていると言うのです。当然、公平な貿易とは言えないと思います。特に、発展途上国のような貧困層の多い国の場合には、その方法での取引が日常茶飯事なのだそうです。私は、そのことにとっても驚かされました。また、公平に取引されないことは、その労働に見合う賃金が支払われないことを意味しています。よって、貧困から抜け出すことは不可能に近い状態なのだと知りました。

私が思っていた以上に、世界は複雑なのだと感じました。先進国が発展途上国に援助をすれば、平和な世界になると単純に考えていた自分が、少し恥ずかしくなりました。

実際、多くの国々が援助や寄付をしています。日本も“ODA（政府開発援助）”という援助を行っています。しかし、援助や寄付をするだけで本当に豊かになるのでしょうか。もしそうなら、とうの昔に貧困から抜け出しているのではないかと思います。

インターネットで調べていくうちに、私は悲しい現実を知りました。ある国では、私と同じくらいの人が多くが、学校へ通えず、家計を助けるため仕事をしています。教育を受けられないことで、低賃金の仕事に就くことになります。その人達が親となっても、やはり貧しさで子供を学校へ通わせることができずに同じことを繰り返していくのです。いくら一生懸命働いても、決して貧困から抜け出すことが出来ないとい

うのです。本当に大切なのは、援助や寄付ではなく継続的に生産し、十分暮らしていただける賃金を得られることがまず大切なのだと思います。

調べれば調べるほど、私は自分の無知と無力さに気づかされました。そして、何もできない自分に腹立たしい気持ちになり、自分にも何かできることはないかと、考えてみることにしたのです。

国際協力と言えば、なんだかととても難しいもののように思えます。しかし、発展途上国が自立するために、最も有効なのが“フェアトレード”だと思います。当たり前前の公平な貿易こそが、貧困を救うのだと考えたからです。今、私にできることは、フェアトレード商品をもっと理解し、広めそれらを購入することだと思います。

調べていく中で、フェアトレードの考え方は、世界的なものだということが分かりました。しかし、フェアトレード商品の国別売上推定総額も、一人当たりの売上額も、日本は最下位なのです。驚くことに、売り上げ総額では一位のアメリカの百分の一しかありません。そして、一人当たりの売り上げ額でも、日本は一位であるスイスの百分の一しかないのです。

世界的には、すでにフェアトレードの考え方や、その商品は広がっています。ところが、日本では全くといっていいほど、理解されていないように思われます。商品自体の種類も少ないのが現状です。例えば、欧米では多くの行政機関や職場で、フェアトレードの製品を採用したりして国際協力をしています。また、アメリカでは多くの大学の食堂や売店で、フェアトレードコーヒーが販売されています。それは、学生が中心となって学校側や、納入業者に働きかけて実現したものなのだそうです。

それぞれは、本当にささいなことだと思います。しかし、私にもそれならできるかもしれません。フェアトレード商品はコーヒーばかりでなく、紅茶やチョコレート、バナナなどもあります。また、サッカーボールやバレーボールなどの食品以外のものもあります。

私は、ファミリーレストランで初めてフェアトレード商品を目にしましたが、よく行くスーパーでも扱ってもらえるように、お願いすることだって、立派な国際協力なのだと思います。そして、フェアトレードについて友達や身近な人達と話し合い、それを知ることで、世界はほんの少し良くなっていくのかもしれない。

ファミリーレストランで、購入した一袋のコーヒーから、色々なことを知ることができ本当に有意義だったと思います。途上国の生産者と、私達消費者が、公平な貿易で、結ばれてこそ、互いを理解し、協力しあえるのではないのでしょうか。それが、同じ地球に生まれた仲間として当然の義務なのです。